



2025 FIA-F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP Rd,6-Rd,7 OTG Motorsports REPORT

8月23日 - 24日 (Rd.6-7) 天候: 晴れ コース: 鈴鹿サーキット

2015年から日本国内でもスタートしたエントリーフォーミュラの「FIA F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP (FIA F4選手権)」。今季も全14戦がSUPER GTのサポートレースとして開催され、5月に富士スピードウェイで開幕した。2025年は併催するSUPER GTの海外戦が行なわれたため、第2大会は開幕戦から約3ヶ月が経った8月2日-3日に富士スピードウェイで実施された。そして、今回の第3大会は鈴鹿サーキットが舞台で、8月23日に予選と第6戦の決勝レース、24日に第7戦の決勝レースが行なわれた。OTG MOTORSPORTSの母体となる大阪トヨペットグループは、FIA F4選手権の若手育成という理念に共感し、シリーズの設立当初からスポンサーとして支援。2017年からは自チームを結成して、これまでにSUPER GTにステップアップした菅波冬悟選手や伊東黎明選手を同チームから排出してきた。

今季は2019年以來の複数台体制となり、60号車には昨年に引き続き6代目のFIA F4 JAPANESE CHALLENGEドライバーとなる熊谷憲太選手、80号車にはKYOJO CUPなどでも活躍する翁長実希選手を起用している。

2年目となる熊谷選手は第4戦で10位となりポイントを獲得しているが、それ以外ではポイント圏内に入ることができず、今大会では一矢報いたいところだ。FIA F4選手権は初参戦となる翁長選手だが、ライバル勢に劣ることなくポイント圏内に手が届きそうなレースもあり、シーズン中盤に向けて上位フィニッシュが期待される。



予選

#60熊谷憲太選手

第6戦／3位／2分8秒443

第7戦／4位／2分8秒570

今大会も多くのマシンがエントリーしていてチャンピオンクラス、インディペンデントクラスを合わせて49台が予選に出走した。全長が5.8kmと長い鈴鹿サーキットだが、クリアラップを取るためのポジションも重要となった。

チャンピオンクラスの予選は8時55分からスタートしたが、開始から4分が経過したところでコース上にマシンが止まってしまう赤旗が提示される。6分の中断を経て9時05分に予選が再開すると、熊谷選手は計測5周目に2分8秒570をマークしタイミングモニターの上位に表示される。翌周は他車との間合いを図り、7周目には2分8秒443までタイムアップ。その後もチェッカーまで走ったがコース上の混雑もありタイムは伸びなかった。それでもベストタイムで競う第6戦は3位、セカンドベストタイムを採用する第7戦は4位とこれまでで最高の結果となった。

#80翁長実希選手

第6戦／26位／2分9秒874

第7戦／27位／2分10秒243

翁長選手は練習走行ではトップとのタイム差があり、走らせ方やコース攻略などいくつかの課題を抱えての予選となった。

コースオープンとともにアタックに入るが、計測2周目に赤旗が提示される。すぐに予選が再開されると計測4周目に2分10秒253をマーク、7周目には2分10秒243までタイムアップを図るがライバル勢には離されていた。翌周に2分9秒874のベストタイムを記録したものの、想定した予選とはならなかった。

結果として第6戦は26位、セカンドベストタイムで競う第7戦は27位とともに後方からのスタートとなった。今大会の予選はトップから20位までが1秒以内と接戦となったが、練習走行から思い通りの走りができず苦戦を強いられた。



Rd.06

#60熊谷憲太選手

スタート3位、フィニッシュ5位

予選終了から4時間半のインターバルを経て第6戦の決勝レースはスタートする。

自己最高位の3番グリッドに並んだ熊谷選手は、課題だったスタートでポジションを守ると1コーナーを3番手で通過。しかし、その後のダンロップコーナーからデグナーカーブの間で1台にパスされ4番手に後退する。その直後に後続のマシンがクラッシュしたためにセーフティカーが導入される。3周目にレースが再開すると、熊谷選手は先行する3台を追った。5周目には自己ベストタイムの2分9秒603をマークするが、3番手とギャップが0.6秒まで開いてしまう。後続からもプレッシャーを掛けられる展開となり、6周目のシケインで1台にパスされて5番手に後退。7周目にはセーフティカーが導入され、ここまで築いてきたギャップがリセットされる。セーフティカーランは10周目まで続き、ファイナルラップでレースは再開された。最終周も背後に迫られる展開となるが、5番手を守りきり11周目にチェッカーを受けた。

セカンドローからのスタートだったので悔しさもあるが、参戦2年目で自己ベストの結果となる5位に入った。

#80翁長実希選手

スタート26位、フィニッシュ22位

後方からのスタートとなった翁長選手は、どこまでポジションを挽回できるかが注目された。

まずまずのスタートで1コーナーを通過すると熾烈なポジション取りのなかでわずかな接触があり、フロントウイングにダメージを与えてしまう。そのなかでも先行したマシンが後退したため、1周目を24番手で終えた。レースは1周目からセーフティカーが導入され、荒れた展開となる。3周目にリスタートすると、脱落しかけたフロントウイングの影響からかペースが伸びない。2台にパスされて26番手に後退するが、6周目には自己ベストタイムの2分11秒048をマークする。7周目には1つポジションを上げて25番手となり、ファイナルラップにも先行する1台がストップしたため24番手に浮上してチェッカーを受けた。

正式結果では先着した2台にペナルティが与えられ22位となった。



Rd.07

#60熊谷憲太選手

スタート4位、フィニッシュ5位

第7戦の決勝レースは、予選と第6戦の決勝レースから一夜が明けた24日(日)の10時40分にスタートした。

第6戦と同じくセカンドローを獲得した熊谷選手は、課題のスタートで伸びを欠き1コーナーまでに2台にパスされてしまう。その後は踏ん張り6番手を走行していた時点で、第6戦と同じくセーフティカーが導入される。セーフティカーランは1周で終了し2周目に再開すると、5番手のマシンをテールトゥノーズで追う。3周目にバックストレートから130Rでスリップストリームに入ると、シケインでイン側に並び5番手を取り返した。5周目にはクラッシュしたマシンを回収するために再びセーフティカーが導入され、3周後の8周目までセーフティカーランが続いた。5番手からポジションを上げたい熊谷選手だったが、先行するマシンとギャップを付けられてしまう。そして、10周目には3回目のセーフティカーランとなり、5位のままレースは終了した。

スタートの順位から落すことにはなったが2戦連続でポイントを獲得し、ポイントランキングは10位まで上がった。

#80翁長実希選手

スタート26位、フィニッシュ24位

予選結果は27位だったが、前のポジションからスタートするはずだったマシンが規定外のタイヤ交換を行なったために最後尾スタートとなり、翁長選手は26番グリッドからのスタートとなった。

オープニングラップは順位をキープして終えると4周目には1つポジションを上げる。5周目には2分10秒457の自己ベストタイムをマークして、先行するマシンにプレッシャーを掛ける。しかし、すぐに2回目のセーフティカーが導入され、3周にわたってセーフティカーランが続く。8周目に再開するがポジションを上げることができず、10周目には3回目のセーフティカーランとなり、そのままレースは終了した。

第7戦の正式結果は26番手スタートから2ポジションを上げた24位となった。

ドライバーコメント

#60熊谷憲太選手

8月21日、22日の練習走行では、ドライビングやセットアップを合わせ込むことができずに苦労しました。予選に向けてはタイヤの限界値を見極め無理せずに走ることを意識し、アンダーステアが強かったマシンもチームに対応してもらい乗りやすくなりました。これまでは予選で苦戦することが多かったのですが、3番手と4番手のタイムをマークでき、ほっとしています。

第6戦は1コーナーまでポジションを守ったのですが、ダンロップコーナーでラインを外してしまいパスされました。直後にセーフティカーが導入されたので、抜かれていなかったら違った展開でした。第7戦は課題のスタートが上手くいかず2台にパスされましたが、レース中に1台を抜き5位となりました。2戦ともに多くのポイントが獲れたことは自信につながります。上位でレースすることで学んだことや収穫が多かったので、次戦以降もこのポジションが定位置になるように努力します。

#80翁長実希選手

第1戦から5戦の舞台となった富士スピードウェイに比べると鈴鹿サーキットは走行機会が少なく、その影響が出るレースとなってしまいました。練習走行からトップとの差があり、修正していったのですが対応力が足りませんでした。決勝レースは26番手、27番手とどちらも後ろのグリッドとなったので前に入るしかなかったのですが、実際は防戦となりました。第6戦ではオープニングラップの混戦で感覚はなかったのですが、わずかに接触した影響でフロントウイングが脱落しそうになりました。そのためラップタイムも伸びず悔しい結果でした。第7戦はスタートが決まり、レース中にもオーバーテイクができ良かったのですが、そもそのペースが足りませんでした。

2戦ともに満足できる内容ではなく、期待に応えられませんでした。チームメイトの熊谷選手は上位でフィニッシュし良いデータが獲れているので、参考にしながら成長していきたいです。